

《担当者名》○田中真樹 高橋祐輔 丸川活司

【概要】

本特論では、臨床検査研究法特論Ⅰで学習する知識と共に、研究を遂行する上で必要となる、実験動物を用いた臨床検査研究法、および研究結果に対する応用的な統計学的解析法を学習する。また、研究倫理に関する知識を深め、臨床検査研究などのヒトを対象とした研究を行う上で発生する倫理的問題について学び、倫理的に配慮された研究展開法と研究コンプライアンスを学習する。さらに、ヒトの血液・尿・組織や生体を用いた臨床研究の立案から実施までの各種手続きの流れ、および論文作成の手順やプレゼンテーション方法についても習得する。

【学修目標】

- 1) 臨床検査に携わる高度専門職業人として、臨床検査や関連研究から新しい知識と技術を修得、実践・応用するために、研究の立案から実施および論文作成の手順やプレゼンテーション方法について学ぶ。
- 2) 新規臨床検査項目を開発するために、動物実験の基本的な考え方を理解する。
- 3) 動物実験の現状を理解し説明できる。
- 4) 遺伝子改変マウスを理解し類別できる。
- 5) 統計ソフトを応用的に操作する。
- 6) データを正確に解析し、得た結果情報を円滑に説明できる。
- 7) ヒトを対象とした臨床検査研究に必要な倫理を列挙できる。
- 8) 臨床研究の実施に必要な手続きと対応組織について理解し説明できる。
- 9) 論文の作成手順や報告方法を習得できる。
- 10) 高度専門職業人としての質の高い臨床検査の知識・技術を提供する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	動物実験の目的	・動物実験の歴史・概念・目的 キーワード：動物実験施設、研究理念	田中真樹
2	実験動物の実験操作 1	・身体の保定・給餌・給水制限・外科的処置・麻酔鎮 処置 キーワード：小動物、感染、麻酔	田中真樹
3	実験動物の実験操作 2	・術後管理・人道的エンドポイント・安楽死処置・安 全管理の配慮 キーワード：実験倫理、実験計画書	田中真樹
4	遺伝子改変マウス	・トランスジェニックマウスの概要 キーワード：マウス、遺伝子、飼育	田中真樹
5	研究データの解析 1	・統計ソフトの使い方について キーワード：SPSS、疫学	高橋祐輔
6	研究データの解析 2	・統計データを用いた結果のプレゼンテーション法 キーワード：表、グラフ、原稿 ・グループワーク(統計の実践と解釈)	高橋祐輔
7	研究倫理の概念	・研究コンプライアンス(研究の不正行為や研究費の 不正使用)について キーワード：研究費、コンプライアンス	高橋祐輔
8	利益相反	・利益相反について キーワード：産学、開示	高橋祐輔
9	研究の倫理指針 1	・ヒトを対象とした研究の倫理指針 キーワード：疫学調査、アンケート調査	丸川活司
10	研究の倫理指針 2	・手術等で摘出されたヒト組織の倫理指針 キーワード：病理組織、分子病理	丸川活司
11	研究の倫理指針 3	・動物実験等の実施に関する基本指針 キーワード：実験計画書、研究倫理	高橋祐輔
12	臨床研究 1	・臨床研究の概要と現状について キーワード：研究計画、利益相反	丸川活司

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
13	臨床研究 2	・臨床研究の進め方について キーワード：データー整理、統計解析 ・グループワーク(臨床研究のあり方について)	丸川活司
14	修士論文の作成	・修士論文作成のための手順 キーワード：論文検索、概要、結論、方法、考察	田中真樹
15	修士論文の報告	・報告時のプレゼンテーションのやり方 キーワード：学会、原稿、図表 ・グループワーク(プレゼンテーションを実践してみる)	田中真樹

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

レポート100%

【評価基準】

研究を遂行する上で必要となる、実験動物を用いた臨床検査研究法、および研究結果に対する応用的な統計学的解析法を理解し、臨床研究の立案から実施までの各種手続きの流れ、および論文作成やプレゼンテーションができる者に対して単位を付与し、学修目標に記載する能力（知識・技能、思考力、判断力、表現力など）の達成度に応じて、優（80点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）の評価を与える。

【教科書】

教科書は使用しない、その都度プリントを配付する

【参考書】

配付資料

【備考】

Google Formを用いてレポート課題を提出する。

【学修の準備】

次回の授業内容について、調べておくこと(120分)。
復習は、配付資料を活用し学習を深めること(120分)。

【ディプロマポリシーとの関連性】

（DP2）臨床検査に携わる高度専門職業人として、医療環境の変化や社会的ニーズを把握し、臨床検査や関連研究から新しい知識と技術を修得、実践・応用し、質の高い臨床検査を提供できる能力を身につけていること。

【実務経験】

田中真樹(歯科医師)、丸川活司(臨床検査技師)、高橋祐輔(臨床検査技師)

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での実務経験を活かし、臨床検査研究法特論 を講義する。